

RPPC メールマガジン 第 840 号

リサイクルポート推進協議会（令和 2 年 9 月 16 日）

■事務局からのお知らせ

1)NPO 法人山形県リサイクルポート情報センターのメルマガを添付しました。

2)循環資源利用促進部会

日時：10 月 8 日（木）14:00～16:00

開催方法：会場（みなと総合研究財団）・WEB 併用

3)リサイクルポートセミナー

日時：11 月 24 日（火）午後

会場：第一ホテル東京シーフォート・YouTube Live 配信併用（専用アカウント発行）

令和 2 年度テーマ：「with コロナ・CO2 削減時代に リサイクルイノベーション」

※詳細につきましては改めてご案内致します。

■先週・今週の報道発表

先週・今週のお知らせは特にありません。

■リサイクルポートに関連する最新の情報

1.港湾インフラのデータ連携基盤構築へ、年度内に基本仕様まとめ

国土交通省港湾局は、港湾インフラ分野に関する情報を一元的に取扱う「港湾関連データ連携基盤（港湾インフラ分野）」の構築に向けた検討に着手しており、現在、同連携基盤で取り扱うべき情報の選定、また基本仕様を検討するため、全国の港湾管理者（全 1 6 6 者）並びに業界関係者（日本埋立浚渫協会、港湾技術コンサルタント協会構成員）にアンケート調査を行っている。

今年度末に基本仕様等を取りまとめ、来年度からシステム設計・データの規格化等を進める。ステップ 1 として 10 港程度を対象に 2 0 2 2 年度中に運用を開始、その後ステップ 2 として 2 4 年度頃を目途に重要港湾以上 1 2 5 港、ステップ 3 として 2 6 年度頃を目途に全国 9 3 2 港の情報を連携させたい考え。

2.大阪港北港南CT機能の強化へ、荷さばき地拡張や臨港道

近畿地方整備局大阪港湾・空港整備事務所（佐々木規雄所長）は、大阪港の取組として国際コンテナ戦略港湾の機能強化に向けた取組みを引き続き進める。コンテナ貨物の取扱い増加に対応し、C-12 岸壁荷さばき地を東側に拡張するほか、臨港道路とコンテナヤードを繋ぐ進入ゲートの自動化を検討しており、将来はCONPASSも導入して、ターミナルの高機能化や夢洲地区の車両混雑の緩和などを進めていく考え。

大阪港北港南地区ではコンテナ取扱貨物の増加により、荷さばき地不足が顕在化しており、C-12 延伸部岸壁ヤードの横幅を拓げることにしており、約6・4 畝を国有港湾用地に取り込み、今後整備していくこととしている。

これにより限界を迎えている大阪港夢洲地区の国際コンテナターミナル取扱い能力は現状の124万TEUから141万TEUへの拡大が可能になる。

3.那覇港、港湾計画改訂へ動き出す。浦添市が米軍港の北側配置同意

那覇港の新しい港湾改訂計画が令和3年度に策定される見通しになってきた。浦添市が那覇軍港の北側配置案を受け入れることを決めたことにより、民港プランも進むことになった。今後は浦添市が西海岸地区で計画してきているコースタルリゾート構想等の見直し案を作成して「浦添ふ頭地区調整検討会議（沖縄県、那覇市、浦添市で構成）」での協議を通じて、港湾計画に反映する。

防衛省から示される予定の軍港施設の配置も踏まえ、那覇港管理組合では来年度の地方港湾審議会開催へと進める見通し。これにより停滞していた那覇港の港湾改訂計画がいよいよ具体化する。

4.横浜港新本牧地区HBケーソン、関東地整がWTO2件の手続き

関東地方整備局は横浜港新本牧地区の整備で、護岸防波のハイブリッドケーソン製作工事2件の手続きを行っている。今年度は更にHBケーソン製作工事2件と築造工事2件を発注していく。新本牧地区護岸の工場製作工及び本体工(ケーソン式)を施工する。

鋼殻を製作した後、コンクリートを打ってケーソンを完成させる工事で、2件の工事によりハイブリッドケーソンを4函ずつ、計8函製作する。

横浜港新本牧地区護岸（防波）本体工事は、工場製作工が鋼殻4函の製作、止水蓋3組の製作。また、本体工として摩擦増大マット取付とハイブリッドケーソン4函の製作を行う。

5.小樽港長期構想を年内策定、将来プロジェクト素案

小樽市は、7月に開催した第3回小樽港長期構想検討委員会で小樽港の目指すべき姿、将来プロジェクトの展開、空間利用計画の素案を審議した。今後は11月頃に予定する第4回目の委員会でそれぞれの案を提示し年内に長期構想を策定する。また、港湾計画の改訂は令和3年7月を目指す。

将来プロジェクトの展開素案では、短中期の施策としてフェリーターミナルの耐震強化岸壁、3号ふ頭の大型クルーズ船対応岸壁、港口の防波堤改良、港町ふ頭岸壁前面の泊地増深などを挙げている。

【港湾空港タイムス 09月14日号から編集】

////////////////////////////////////

発行者：RPPC 広報部会

部会長：新谷 聡 りんかい日産建設（株）

部会員：山田 安彦 日本製鉄（株）

友歳 巖 五洋建設（株）

川田 延也 東京都

齋藤 憲雄 山形県リサイクルポート情報センター

リサイクルポート推進協議会 事務局

一般財団法人みなと総合研究財団（内） 担当：押田、清水、安田

URL: <http://www.rppc.jp/> E-mail: rppc_jimukyoku@wave.or.jp

////////////////////////////////////

■会員主催や会員に関係した催し物（セミナーなど）の情報がありましたらご連絡ください。開催案内等の情報をメルマガで配信致します。

■メルマガ配信先に変更がある場合、事務局までご連絡ください。

■メルマガに関するご意見、ご要望がありましたらご連絡ください